

インタビュー



車いすバスケットボール
新潟WBC
わたなべともき
渡邊 友希 選手

プロフィール 平成12年新潟市北区生まれ、19歳。生まれつき下半身にまひがある。平成29年から23歳以下の日本代表強化育成選手に選出される。現在、新潟医療福祉大学1年生

車いすバスケットなら思い切り動ける

小学4年生の時、同じ障がいがある友達に誘われたのがきっかけで車いすバスケットボールを始めました。学校の体育の授業や休み時間に周りと同じように体を動かすのは難しかったですが、車いすバスケットなら自分も思い切り運動ができるかもしれないと思い、挑戦しました。

初めは車いすの操作が難しく、なかなか思うように動けませんでしたが、でも相手とぶつかったり倒れたりするのは不思議と怖くなくて、むしろ楽しかったのを覚えています。けがをすることもあります、その激しさも含めて競技の魅力だと感じています。

普段は総合福祉会館(中央区八千代1)などで週に2、3回所属チームの練習をしています。それ以外にもジムで筋力トレーニングをしたり、大学の車いすバスケットサークルに参加したりと、ほぼ毎日体を動かしています。

4年後は日本代表の主力に

3年前に初めて23歳以下の日本代表強化育成合宿に参加しました。最初は練習に全く付いていけず、周りの選手との実力の違いに驚きましたが、年を追うごとに自分のレベルも上がっていると思います。得意なカットインプレー(ゴール下に切れ込む動き)を磨き、パスの精度やスピードを高めていきたいです。

まずは23歳以下の代表メンバーに入り、来年の世界選手権に出場するのが今の目標です。将来は日本代表としてパラリンピックに出場したいです。東京大会は難しいですが、4年後のパリ大会では主力として金メダルを目指したいと思っています。



試合中に円陣を組む渡邊選手(左から2人目、5番)。「選手によって障がいの程度はさまざまです。それぞれに合ったポジションや役割があり、誰でも活躍することができます」

新潟から世界を目指す

東京2020大会の開催がおおよそ半年後に迫っています。世界一を決める舞台を目指し、新潟で日々努力を続けているアスリートをご紹介します。

岡広報課
(☎025-226-2089)

インタビュー

陸上競技・50km競歩
新潟アルビレックスランニングクラブ

小林 快 選手



プロフィール 平成5年秋田県生まれ、26歳。平成29年、ロンドン世界陸上競技選手権大会で銅メダルを獲得。昨年3月から同クラブに所属。自己記録は3時間41分19秒(日本歴代8位)

オリンピックに出るため競歩を選択

元々は箱根駅伝を走るのが夢で、長距離走に取り組んでいました。高校1年生の時にたまたま出場枠が空いていたのがきっかけで競歩の大会にも出るようになり、全国高校総体や国体で準優勝することができました。

大学に入学してからはほぼ走る方に専念したのですが、チーム内の競争に勝てず、駅伝のメンバーに入れませんでした。そんな時オリンピックの東京開催が決まり、「競歩で代表になりたい」と思い、真剣に競歩に取り組むことを決意しました。

競歩は歩き方にルールがあり、審判に何度も歩型違反を指摘されると失格になってしまいます。身体能力だけでなく技術が重要です。

選手同士の駆け引きが勝敗を左右するところも魅力の一つです。誰がどこで仕掛けるかを読み合いながら戦略を立てていく、奥が深い競技だと思います。

より良い練習環境を求めて新潟へ

ロンドン世界選手権の後、さらに上を目指すために競歩に専念したいと考え、新潟に拠点を移しました。実は初めて出場した全国大会がトキメキ新潟国体(平成21年)で、縁がある土地だと思います。気候や環境も出身の秋田に似ていて、親しみを感じています。

4月の日本選手権で優勝すればオリンピックの代表に内定します。最近是国内のレベルが上がり、厳しい戦いになると思います。残された期間で自分の強みであるスピードをさらに磨いて大会に臨むつもりです。新潟市民の皆さんからの応援を力に変えて頑張ります！



普段は信濃川やすらぎ堤のランニングコースで練習。「景色がいいし、市民ランナーの方も声を掛けてくれて励みになります」

開幕まであと201日！ **オリンピック・パラリンピックをもっと身近に** 岡スポーツ振興課 (☎025-226-2601)

聖火リレー・採火式

東京2020オリンピック聖火リレーは3月26日(木)に福島県内でスタートし、6月6日(土)に新潟市を通る予定です。

8月13日(木)～17日(月)には、東京2020パラリンピック聖火リレーの採火式が新潟市を含む全国各地で行われます。※詳しい日程、会場などは未定。決定次第市報にいがたや市ホームページなどでお知らせします



ホストタウン・事前合宿

新潟市は、東京2020大会参加国・地域とのスポーツ・文化交流や大会終了後の交流の継続を目的とした「ホストタウン制度」を活用しています。

モンゴル、フランス、ロシアを相手国として登録しており、フランスの空手チーム=写真=とロシアの新体操チームが市内で事前合宿を行う予定です。それぞれの来訪に合わせて、市民向けの演技発表会、講習会や合同練習会などの開催を予定しています。

